

第2章 金正恩政権4年目（2015年）の国内政治について

平井 久志

はじめに

北朝鮮の金正日総書記が2011年12月に死亡し、金正恩時代がスタートして4年余が経過した。金正恩第1書記は2012年7月に李英鎬総参謀長を、2013年12月に張成沢党行政部長を粛清し、「唯一的領導體系」という名のもとに、自らの独裁体制を強化してきた。2014年には党行政部を中心に張成沢党行政部長に連なる勢力が粛清対象になった。

金正恩第1書記は、潜在的なライバルになる可能性のある軍と党の実力者とその支持勢力を粛清することで政権基盤を固めた。金正恩第1書記は、その後も、自らが登用した幹部に対しても解任や軍階級の昇降格などを繰り返した。

2015年は朝鮮労働党創建70周年の年として注目され、この記念行事に関連して中国との関係が修復されるのか、金正恩第1書記の最初の海外訪問がどこになるのかなどが注目された。党創建70周年に関連し、1980年以来開催されていない党大会が開催されるのではないかという見方も出たが、2015年の開催はなかった。南北の非武装地帯では8月に地雷の爆発や相互の砲撃などで軍事的緊張が高まったが、板門店での協議で「8・25合意」が生まれた。朝鮮労働党は2015年10月30日に、第7回党大会を2016年5月初めに開催すると発表した。金正恩第1書記は「8・25合意」の後には、国際社会との対立を激化させるような方針を抑制してきたが、2016年に入ると1月に第4回目の核実験、2月に事実上の長距離弾道ミサイルである「人工衛星」の発射を強行した。

本稿では、2015年の北朝鮮の国内政治を中心に金正恩政権の状況を検証する。国内政治は、南北関係、中朝関係、核・ミサイル問題などとも密接に関連しているため、そうした分野にも一部言及した。

2015年「新年の辞」

金正恩第1書記は2015年元日に3回目の「新年の辞」を発表した¹。金正恩第1書記は、2015年が「祖国解放70周年と朝鮮労働党創建70周年にあたる極めて意義深い年」だとし「すべての軍隊と人民が10月の大祝典場に向かって力強く駆けていくべきだ」と訴えた。

また、金正恩第1書記は「われわれは、南朝鮮当局が心から対話によって北南関係の改善を図ろうとする立場に立つなら、中断された高位級接触も再開し、部門別の会談も行うことができると思う。そして雰囲気と環境がもたらされ次第、最高位級会談も開催できない理由はない」と語り、南北首脳会談の可能性にも言及し、南北関係改善への意欲を示した。

「新年の辞」では「党活動の主力が人民生活の向上に向けられるようにすべきだ」「意義深い今年、人民生活の向上において転換をもたらさなければならない」とし、「人民生活の向上」が強調された。経済分野の課題を「人民生活の向上」と「経済強国建設」とした上で「農業と畜産業、水産業を3本の柱とし、人民の食の問題を解決し、食生活水準を一段と高めなければならない」と訴えた。

2014年は「農業にすべての力を集中しなければなりません」と農業最優先を掲げたが、2015年は「農業」「畜産業」「水産業」の「3本柱」を強調した。2015年の「新年の辞」が、

「食の問題の解決」とともに「食生活水準の向上」についても言及したことは、北朝鮮の食糧生産が増産基調で推移し、量の目途が立ち始め、質の心配をする段階に入りつつあることを示唆した。

また、「内閣をはじめ国家経済指導機関で現実的要求にかなったわれわれ式の経済管理方法を確立するための活動を積極的に推進し、すべての経済機関、企業体が企業活動を主体的に、創意的に行うようにすべきだ。各級党組織は経済管理方法を改善する活動が党の意図どおり進められるように強く後押ししなければならない」と述べ、金正恩政権が進めている「社会主義経済管理方法の改善」という名の経済改革推進を確認した。

金正恩第1書記は2014年5月30日に「労作」を内部的に発表し、企業管理における経済改革路線を示した。この「労作」は対外的に発表されていないが、党理論機関誌「勤労者」2014年9月号がこの「労作」の存在を確認した。「5・30労作」は農業部門で成功を収めている「圃田担当責任制」の企業バージョンとしての「社会主義企業責任管理制」という方式が提示されたとみられる。

「新年の辞」は「対外経済関係を多角的に発展させ、元山—金剛山国際観光地帯をはじめ経済開発区の開発を積極的に推進すべきだ」と経済開発区構想の推進を訴えた。

2015年「新年の辞」は冒頭部分で「全国の家畜にあたたかい情があふれ、かわいいわれらの子供たちにより明るい未来があるよう祈ります」と訴え、演説の最後を「全国すべての家庭に幸せがあることを祈ります」という言葉で結んだ。「新年の辞」は「戦って行こう」など勇ましい言葉で終わることが多いが「家庭の幸せ」を祈るという異例の結語だった。

さらに金正恩第1書記は2015年の最初の活動を「平壤育児院・愛育園」を訪問することから始めた。この施設は両親のいない子供たちの施設とみられる。

金正恩氏は錦繡山太陽宮殿訪問を除けば、2012年には柳京守第105戦車師団訪問、2013年は牡丹峰楽団の公演観覧、2014年は水産冷凍施設の視察から1年の活動を始めている。2015年は「子供」や「家庭」に重点を置き「人民の幸福を重視する指導者」「親しまれる指導者」という演出をしているようだった。

馬園春局長、辺仁善作戦局長の更迭

2014年末から2015年にかけて、金正恩政権になって登用された幹部が更迭される事例が相次ぎ衝撃を与えた。それまでの幹部の交代は、李英鎬軍総参謀長や張成沢党行政部長のように、将来、金正恩第1書記のライバルになる可能性のある人物や、金正日時代の幹部を権力の核心部分から排除していくもので、金正恩第1書記の政権基盤確立への動きとして理解された。しかし、金正恩第1書記自身が起用し、側近として重用してきた幹部の更迭が相次ぎ、波紋を広げた。

馬園春国防委員会設計局長は金正恩第1書記の公開活動で2013年には47回、2014年には39回同行し、それぞれ幹部の中で第5位にランクされるほどの側近であった。馬園春氏はもともと設計家で、金正恩時代に入ってからつくられた綾羅人民遊園地、美林乗馬クラブ、馬息嶺スキー場などの大規模施設の建設を統括してきたとされる。

しかし、馬園春設計局長は2014年11月1日に報道された金正恩第1書記の平壤国際空港の第2庁舎現地指導に同行して以来²、動静報道が途絶えた。金正恩第1書記はこの現地指導で「世界的な趨勢と他国のよいものを取り入れながらも主体性、民族性が生かされ

るように仕上げる課題を与えたが、そのようにできていない」と厳しく批判し、工事のやり直しを命じた。この工事における命令不服従が馬局長の解任と関連があるとみられた。

辺仁善総参謀部第1副総参謀長兼作戦局長も金正恩時代になって台頭した軍幹部だが、2014年11月5日に金正恩第1書記が軍大隊長・大隊政治指導委員大会の参加者と記念写真を撮った際に同行して以来³、消息が途絶えた。

朝鮮中央通信は2015年1月7日、金正恩第1書記が朝鮮人民軍前線軍団第1梯隊歩兵師団直屬区分隊の無反動砲の砲撃競技大会を指導したと報じた。これに朝鮮人民軍の金春三総参謀部第1副総参謀長兼作戦局長（陸軍中將）が同行したと報じ、辺仁善第1副総参謀長兼作戦局長が解任され、金春三中將が後任に就任していることが確認された⁴。

辺仁善作戦局長については処刑説まで流れたが、韓国の国家情報院は国会情報委員会で2015年2月、馬園春、辺仁善両氏の処刑説については確認されていないとした⁵。

相次ぐ党重要会議

2015年2月10日に、朝鮮労働党政治局会議が開かれ、決定書「朝鮮労働党創立70周年と祖国解放70周年を偉大な党の指導のもとに強盛・繁栄する先軍朝鮮の革命的大慶事として迎えることについて」を採択した⁶。8月の解放70周年と10月の党創建70周年を迎えるにあたっての決定書の採択だった。決定書は10月に軍事パレードを行うことや「現代戦の要求に即した精密化、軽量化、無人化、知能化されたわれわれの方式の強力な先端武力装備をより多く開発」するとした。

党中央委員会と党中央軍事委員会は2月11日、解放70周年と党創建70周年を迎えるにあたっての300を超える共同スローガンを発表した⁷。

続いて、党政治局拡大会議が2月18日に開催され（1）金正日総書記の遺訓をわが党と革命の永遠なる指導指針としてとらえて最後まで貫徹することについて（2）組織（人事）問題一が討議された⁸。

政治局拡大会議では、第1議題について崔龍海党書記が報告を行い、朴奉珠首相、李載侑党宣伝扇動部第1副部長、玄永哲人民武力部長、金春燮慈江道党責任書記、李萬建平安北道党責任書記、全勇男・金日成社会主義青年同盟委員長が討議を行った。過去3年間で「金正日総書記の遺訓を貫徹するための活動の期間」とした。この政治局拡大会議は、過去1年間の総括ではなく、金正日総書記の遺訓貫徹を中心課題に過去3年間で総括するものであった。

第1議案に関する決定書は「金正恩元帥は、党の唯一的指導に挑戦した現代版分派分子らを断固と摘発、粉碎し、全党と全社会の思想的色化を最上の境地に引き上げ」と強調し、2013年12月の張成沢党行政部長の粛清、処刑を正当化、評価した。さらに決定書は①勢道（分派による権力の不当行使）②官僚主義③不正腐敗との闘いを強く展開していくことを確認した。2月12日の「共同スローガン」でも「勢道」と「官僚主義」との闘いは強調されていたが、ここに「不正腐敗」が3本柱の1つとして追加された。これは逆に言えば、党組織の中で「勢道」や「官僚主義」と並んで「不正腐敗」がはびこっていることを認めたことでもある。

ここでは人事問題が討議、決定されたとみられるが、具体的な発表はなかった。政治局会議を2月10日に開いたばかりなのに、8日後にまた政治局拡大会議を開くというのは異

例だった。党政治局拡大会議の開催は2013年12月8日に張成沢党行政部長の解任を決めて以来であった。

金正恩第1書記は2014年12月の金正日総書記死亡3周年を経て、「3年服喪」を脱して「独り立ち」に向かうとみられた。そのため、2015年元日の「新年の辞」では、金正日総書記の「遺訓」についての言及はなかった。

しかし、党政治局拡大会議では再び金正日総書記の「遺訓貫徹」が訴えられ、時計が3年前に戻ってしまった。金正恩第1書記の独自性を打ち出すのではなく、金日成主席、金正日総書記の威光を借りて、金正恩第1書記を権威付ける手法に戻った。

さらに2月23日に、党中央軍事委員会が開催されたことが報じられた。党中央軍事委員会では（1）現情勢と革命発展の要求に即して国家防衛事業の全般に一大転換をもたらすための重要な戦略的問題と（2）組織（人事）問題が討議された⁹。

党中央軍事委員会でも「金正日総書記の遺訓を貫徹するための今後の軍建設方向を明確に規定」した。ここでも過去3年間の総括し、今後の方針が討議された。

同拡大会議では「昨年の人民軍の活動において現れた偏向」について指摘がなされた。「偏向」の具体的な内容には言及がなかったが、辺仁善総参謀部第1副総参謀長兼作戦局長の解任との関係が注目された。

さらに、同拡大会議は「今年、人民軍が戦闘準備の完成に総力を集中しなければならない」と強調し「このために人民軍の機構体系を精鋭化し、任意の時刻に最高司令部の戦略的企図を実現できるように機構体系を改編するための方向と方途を明示した」とされ、朝鮮人民軍の組織改編が討議されたことを示唆した。

党中央軍事委員会でも人事が討議、決定されたとみられるが公表されなかった。

北朝鮮が金正日総書記の誕生日（2月16日）前後に、このように党政治局会議、党政治局拡大会議、党中央軍事委員会を連続して開催するのは異例のことであった。4月には予算、決算を討議する最高人民会議が開催される。これを目前にして、こうした重要会議を相次いで開催した背景は明らかにされなかったが、10月の党創建70周年に向け、金正日総書記の遺訓貫徹を素材に過去3年間の党と軍の活動を総括したものとみられる。

軍トップが自ら陣頭指揮訓練

党機関紙「労働新聞」は1月27日、金正恩最高司令官が装甲歩兵区分隊の冬季渡河攻撃演習を策定、指導したと報じた¹⁰。同紙はこの演習が金正恩第1書記の「直接の発起」によるものとした。オバマ米大統領が1月22日にユーチューブで、北朝鮮の統治体制について「最も孤立し、最も断絶され、最も残酷な独裁国家」などと酷評し「このような体制はやがて崩壊する」と語ったことへの反応と見られた。朝鮮中央通信は1月31日には金正恩第1書記が米国の空母への奇襲攻撃を想定した訓練を指揮したと報じた¹¹。

冬期渡河演習では黄炳瑞軍総政治局長（次帥）と玄永哲人民武力部長（大将）が自走砲車両や装甲車に乗り込んで陣頭指揮した。黄炳瑞軍総政治局長も玄永哲人民武力部長も1949年生まれで65歳前後の年齢。軍の渡河訓練なら、通常は司令部で指揮する立場だが、野戦の最前線に出た。金正恩第1書記は「わが革命軍隊の指揮官はパルチザン指揮官のように突撃の第一線、敵撃滅の最先頭に立たなければならない」とし、「指揮官の『わたしに続け！』の号令が戦闘訓練場で高く響かなければならない」と述べたという。

30歳過ぎの最高司令官がこう命じた以上、軍総政治局長も人民武力部長も自走砲車両や装甲車に乗り込まなくてはいけないというのは「命令不服従」という批判を恐れるからとみられた。

崔龍海氏の序列、黄炳瑞氏の後に

朝鮮中央通信は2月28日、金正恩第1書記が祖国解放戦争（朝鮮戦争）勝利記念館に新設した近衛部隊館を見て回ったと報じ、これに同行した幹部を「黄炳瑞、崔龍海、呉日晶、韓光相、李載侑、李炳哲、金与正」の順番で報じた¹²。北朝鮮幹部の序列は、2014年10月29日の金正恩第1書記の女子サッカー試合観覧を報じて以来、崔龍海党書記が黄炳瑞軍総政治局長より先に報じられてきたが、再び黄炳瑞軍総政治局長が崔龍海党書記より先に報じられ、序列に変動が生じた。

黄炳瑞軍総政治局長と崔龍海党書記の関係は①崔龍海軍総政治局長—黄炳瑞党組織指導部副部長→②黄炳瑞軍総政治局長—崔龍海党書記→③崔龍海党書記（党政治局常務委員）—黄炳瑞軍総政治局長→④黄炳瑞軍総政治局長—崔龍海党書記と上下関係がシーソーのように変化した。

朝鮮中央通信は3月8日、金正日総書記が発表した論文「女性たちは革命と建設を推進する力強い力量だ」の発表20周年と「3.8国際女性の日」を記念する中央報告大会について報道し、報告を行った崔龍海党書記の肩書きを「政治局員であり党中央委書記」と報じた。崔龍海氏が党政治局常任委員から党政治局員に降格されたことが確認された。これは2月18日の党政治局拡大会議での人事の結果とみられた。

一方、北朝鮮メディアは、4月8日に開かれた金正日総書記の国防委員長推戴22周年の中央報告大会で報告をした黄炳瑞軍総政治局長を、党政治局常務委員の肩書きで報じた¹³。2月18日の党政治局会拡大会議で黄炳瑞軍総政治局長が党政治局常務委員に選出されたとみられる。

人民が余裕ある生活送れず「夜も眠れない」

党機関紙「労働新聞」は1月30日、金正恩第1書記の1月28日付著作「洗浦地区畜産基地の建設を推し進め、畜産業の発展に新たな転換をもたらそう」を報じた¹⁴。

金正恩第1書記はこの中で「わが人民は今まで、敵たちと相対する困難な条件の中で、緊張した闘争を繰り返しながら、社会主義を建設しようと、豊かな生活を満喫することができなかった。生活上の困難に直面しようと、わが党だけを固く信じて、これに付き従い、偉大な首領たち（金日成主席、金正日総書記）に純潔の道徳的義理を尽くそうとしている、そうした良きわが人民に余裕のある生活を準備できないことを考えると眠りにもつけない」と心情を吐露した。金正恩第1書記は「朝鮮労働党にすべてを依託し、朝鮮労働党と共にあらゆる試練と難関を切り抜けてきた人民に一日も早く何うらやむことなく、裕福かつ幸せな生活を与えなければならない」と強調した。

朴道春氏を解任、後任に金春燮氏

北朝鮮は4月9日、最高人民会議第13期第3回会議を開催し、2014年決算と2015年予算を採択、国防委員会の朴道春・国防委員を解任し、金春燮・前慈江道党責任書記を国防

委員に選出した¹⁵。

朴道春氏は党の軍需担当書記であるが、2月18日の党政治局拡大会議で解任され、金春燮前慈江道党責任書記が同書記に就任した可能性が高い。北朝鮮メディアは2月末から金ジェリョン氏を慈江道党責任書記と報じていた。朴道春氏の解任は「職務変動のため」とされており、粛清などではないとみられる。それを示すように朴道春氏が最高人民会議の主席壇に座っている姿が確認されている。だが、朴道春氏はむしろ金正恩時代になって本格的に台頭してきた人物であったため、意外な交代とみられた。

朝鮮中央通信が報じた最高人民会議の主席壇に座った幹部の政治序列は①金永南最高人民会議常任委員長、②黄炳瑞軍総政治局長、③朴奉珠首相、④崔龍海党書記、⑤玄永哲人民武力部長、⑥李永吉軍総参謀長、⑦楊亨燮最高人民会議常任委副委員長、⑧崔永林前首相、⑨李勇武国防委副委員長、⑩呉克烈国防委副委員長、⑪金元弘国家安全保衛部長、⑫金養建党統一戦線部長、⑬郭範基党書記、⑭呉秀容党書記、⑮金平海党部長、⑯崔富一人民保安部長、⑰盧斗哲副首相、⑱趙然俊党組織指導部第1副部長、⑲太宗秀党政治局員候補⑳朴道春氏、㉑金永大朝鮮社会民主党委員長—というものだった。

朴道春氏は政治局員で、2月15日に開催された金正日総書記誕生73周年慶祝中央報告大会では李永吉軍総参謀長と楊亨燮最高人民会議常任委副委員長の間の7番目に報じられた。これをみれば、朴道春氏の政治序列は大幅に低下しており、政治局員候補である太宗秀氏の後であることから、政治局員も解任された可能性が高い。政治局員候補か、政治局から出た可能性もある。

主席壇には金己男党書記、崔泰福党書記、姜錫柱党政治局員の姿がなかったが、崔泰福氏は最高人民会議議長で議長として活動していたためだった。姜錫柱氏は病気のため欠席とみられた。関心を集めたのは、金己男氏であるが、主席壇ではなく演壇下の党第1副部長クラスが座る場にいた。このため、党書記・党政治局員を解任された可能性が指摘された。

だが、党機関紙「労働新聞」は2015年7月23日、金正恩第1書記が新築された黄海南道の「信川博物館」を現地指導したと伝えながら、「黄炳瑞同志、金己男同志、李載侑同志、金与正同志、廉哲成同志が同行した」と伝え、金己男氏を黄炳瑞軍総政治局長の次に報じた¹⁶。この報道で党書記・政治局員のポストに戻っていることが確認された。金己男氏は2015年4月当時、何らかの理由で金正恩第1書記から一線を外されたとみられるが、この報道以降は、以前と同じく活発な活動を続けた。

また、4月3日に羅先市で故金日成主席と金正日総書記の銅像の除幕式が行われ、これに出席した郭範基氏が「党中央委政治局員・書記」の肩書きで報じられ、党政治局員への昇格が確認された¹⁷。

さらに、金養建党統一戦線部長は郭範基氏が政治局員に昇格したことが確認された後も、北朝鮮メディアで郭範基氏より先に紹介されており、金養建氏も党政治局員に昇格したとみられた。

また、朝鮮中央テレビは8月7日に平壤養老院の竣工式を報じる中で、これに出席した呉秀容党書記を「労働党中央委政治局委員であり、党中央委書記」の肩書きで報じ、党政治局員への昇格が確認された。今年2月の党政治局拡大会議で金養建、郭範基、呉秀容各党政治局員候補が党政治局員へ昇格したとみられる¹⁸。

機関決定主義の後退と緊縮予算

最高人民会議に金正恩第1書記は出席しなかった。金正恩第1書記は政権スタート時から出席を続けていたが、2014年9月の最高人民会議に足首の負傷で欠席したのに続き、2回連続の欠席となった。

金正恩政権になり機関決定主義が復活したとみられていた。金日成時代には最高人民会議の前には、最高人民会議での議案を審議する党中央委員会総会などが開かれた。それは朝鮮労働党が国家の上の存在であることを示すとともに、党の機関決定主義のプロセスであった。しかし、金正日時代にはこれが曖昧になった。

金正恩時代になると2012年の最高人民会議の前には党代表者が、2013年には党中央委総会が、2014年には党政治局会議が開かれた。しかし、2015年にはこうした党の会議が開かれず、金正恩第1書記も出席しなかった。党機関決定主義が次第に弱まっているとの指摘も出た。

最高人民会議では、予算などの金額を公表せず、今年の歳入は前年比3.7%増、歳出は同5.5%増とした。予算での歳出の伸び率は2011年8.9%、2012年10.1%、2013年5.9%、2014年6.5%であり、2015年の5.5%は2013年の5.9%よりも低い数字だった。また、予算での歳入の伸び率は2011年7.5%、2012年8.7%、2013年4.1%、2014年4.3%だったが、2015年は3.7%と金正恩時代では最低水準となった。

北朝鮮がこうした縮小基調の予算を組んだ背景には、経済制裁により外国からの投資がなく、中朝関係の冷却化で中国からの大規模投資が滞り、北朝鮮の輸出の最大品目である石炭や鉄鉱石の国際価格の下落などが影響した可能性があると考えられた。その一方で、北朝鮮の各企業に独立採算制が導入され、これまでのように国家が企業に計画を押しつけるのではなく、企業が利益を考えて生産計画を立てるために、合理化の結果として計画経済の規模が縮小する面もあるとの見方も出た。

白頭山5人組

金正恩第1書記は4月18日、朝鮮人民軍戦闘飛行士白頭山地区革命戦跡地踏査行動隊のメンバーたちとともに白頭山に登山した¹⁹。これには黄炳瑞軍総政治局長、崔龍海党書記、金養建党統一戦線部長、李載侑党宣伝扇動部第1副部長、李炳哲党中央委第1副部長の5人の幹部が同行した。金正恩氏は風速25メートルの強風の吹く山頂に立ち日の出を見たと思われた。金正恩氏は「白頭山の革命精神、白頭山の烈風精神はわが軍隊と人民が心臓の中に永遠に抱いて暮らしていくべき崇高な精神であり、この精神を抱いて暮らせば、この世に恐れるものも、不可能なこともない」と強調した。

金正恩氏は、2013年12月の張成沢党行政部長粛清の前に革命聖地である三池淵を訪問した。ここに8人の側近が随行し、張成沢党行政部長の粛清を最終決定したといわれている。当時、この「三池淵8人組」が金正恩第1書記の最側近とされた。8人は金元弘・国家安全保衛部長、金養建・党統一戦線部長、韓光相党財政経理部長、朴泰成労働党組織指導部副部長、黄炳瑞労働党組織指導部副部長（当時）、金炳鎬労働党宣伝扇動部副部長、洪ヨンチル労働党機械工業部副部長、馬園春労働党財政経理部副部長（当時）だった。

しかし、2015年4月ごろの状況では、韓光相財政経理部長、馬園春同副部長（国防委員会設計局長）は公式の場に姿を見せなくなっていた。そうした変化もあり、この白頭山登

山に同行した5人がこの時期の新しい最側近という見方が出た。

金正恩第1書記、バンドン、モスクワ、北京の行事参加せず

2015年には、金正恩第1書記の最初の海外訪問がどこになるのかも注目されたが、結局、海外訪問は同年にはなかった。

同年4月にはアジア・アフリカ会議（バンドン会議）60周年記念行事が行われた。1955年4月にインドネシアのバンドンで開かれたアジア・アフリカ会議は非同盟運動のスタートとされ、バンドン会議10周年の1965年4月には金日成主席が息子の金正日氏を連れて参加した。金日成主席はアリ・アルハム社会科学院で「朝鮮民主主義人民共和国における社会主義建設と南朝鮮革命について」という有名な演説を行った。金主席はこの演説で「主体の思想」という言葉を使い「思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛」が朝鮮労働党の一貫した立場であると強調した。後に「主体思想」へと発展する基礎がここで語られただけに、金正恩第1書記の参加が注目されたが、結局は金永南最高人民会議常任委員長が参加した²⁰。

5月にモスクワで「対独戦勝70周年式典」が行われ、ロシア政府が金正恩第1書記を招待した。ロシア政府は金正恩第1書記が出席する可能性を指摘していたが、直前の4月30日に金正恩第1書記は参加しないと発表した。式典には金永南最高人民会議常任委員長が参加した²¹。

また、9月には北京で「抗日戦争と反ファシズム戦争勝利70年」の記念行事が行われたが、金正恩第1書記はこれにも参加せず、崔龍海党書記が参加した²²。韓国の朴槿恵大統領が朝鮮戦争で銃火を交えた中国の軍事パレードを参観する式典に参加して注目を集めたが、崔龍海党書記との接触もなかった。

金正恩第1書記が一連の行事に参加しなかったのは、二国間の首脳会談もしていない金正恩第1書記が、自分自身にスポットライトが当たらない多国間外交に参加するリスクを避けたとみられた。

玄永哲人民武力部長の粛清

韓国の情報機関、国家情報院は5月13日、非公開で行われた国会の情報委員会での報告で、北朝鮮の玄永哲人民武力部長が4月30日ごろ粛清されたと報告した²³。国家情報院は「数百人の軍幹部が見守る中で、平壤順安区域にある姜健総合軍官学校で、高射銃で銃殺された可能性がある」と国会情報委員会に報告した。

玄永哲人民武力部長は咸鏡北道出身の1949年1月生まれで66歳。金日成軍事総合大学を卒業し1992年に少将になり、2003年には軍偵察局長、2004年には425機械化部隊参謀長を務めた。2006年に中朝国境付近を含む平安北道地域を担当する第8軍団の軍団長に就任した。2009年3月には最高人民会議代議員に選ばれた。

金正恩第1書記は2012年7月15日、当時の軍部のトップであった李英鎬総参謀長をすべての職務から解任した。翌日の同16日に玄永哲氏に次帥の軍事称号が授与された。次帥の称号授与は総参謀長就任を意味した。玄永哲総参謀長はわずか3カ月後の2012年10月に次帥から大将に降格されたが、2013年3月の党中央委員会総会で党政治局員候補に選出された。

しかし、2013年5月に総参謀長を解任され、軍階級も大将から上将にさらに降格になり、軍総参謀長から東部戦線の第5軍団長に左遷となった。玄永哲氏はこのまま地方で軍生活を終えるとみられたが、2014年6月に張正男人民武力部長が解任されるとその後任の人民武力部長に任命された。

玄永哲氏は軍団長などを務めた「野戦軍人」だが、金正恩時代になって軍の核心的部署に起用された軍人である。その意味では、自分の潜在的なライバルになる可能性のある李英鎬総参謀長や張成沢党行政部長の粛清とは意味合いが異なった。国情院は、粛清の理由の1つとして4月24～25日に平壤で開催された朝鮮人民軍第5回訓練指導官大会で金正恩第1書記の演説中に居眠りをしたことが怒りをかかったと指摘したが、北朝鮮当局やメディアもその後、この粛清について具体的な言及はなく、本当の理由は不明だ。

そして、韓国の情報機関、国家情報院は7月14日に国会の情報委員会で、「玄永哲前人民武力部長は、反党・反革命分子として軍団長クラス以上の軍幹部が出席する中で銃殺された」と報告した²⁴。

李英鎬総参謀長や張成沢党行政部長の粛清は、形式主義ではあっても党政治局会議や党政治局拡大会議の決定を経て行われた。しかし、玄永哲人民武力部長の場合は、そうした機関決定のプロセスも踏まれなかった。

韓国では、玄永哲人民武力部長の粛清を契機に、金正恩第1書記の統治に対して「恐怖政治」「恐怖統治」などの批判が出た。

朝鮮中央通信は7月11日、訪朝したラオスの軍事代表団と会談した朴永植氏を「人民武力部長である朝鮮人民軍陸軍大将」の肩書きで報じ、朴永植氏が後任の人民武力部長に就任していることを公式に確認した²⁵。

朴永植氏は1999年4月に少将、2009年4月に中将に昇格した。2014年4月に総政治局組織副局長に就任し上将に昇格した。「労働新聞」は5月29日に金正恩第1書記が朝鮮人民軍の総合育苗場を現地指導したと報じたが、この時に掲載された写真では朴永植氏の階級が「大将」になっていることが確認されており、この時期に既に人民武力部長に就任した可能性が高い。

100年に1度の干ばつ

朝鮮中央通信は6月16日、北朝鮮が100年に1度の最悪の干ばつに見舞われていると報じた。同通信によると、6月8日現在で、田植えを終えた44万1560ヘクタールの田んぼで13万6200ヘクタールの苗が水不足で枯れつつあるとした。被害が酷いのは穀倉地帯で知られる黄海南・北道、平安南道と咸鏡南道で、特に黄海南道では田植えをした面積の80%、黄海北道では同58%が被害を受けているとした²⁶。

世界食糧計画（WFP）報道官は6月18日、「状況が悪化すれば食糧を支援する準備ができています」と述べた。また、中国外務省の陸慷報道局長も同日の会見で、北朝鮮の干ばつに「お見舞い」を表明した上で「必要に応じて援助したい」と述べ、支援の用意があることを明らかにした。国連食糧農業機関（FAO）も6月20日の報告書で、北朝鮮のコメの収穫は昨年比12%減の約230万トンになると予測した。

しかし、6月下旬からは降雨もあり、ある程度状況は好転した。韓国の統一部の鄭俊熙報道官は7月10日の定例ブリーフィングで「5月の降雨量は平年の54.5%だったが、6月

は90%台まで増えたのでかなり（被害は）緩和されたと判断している」とした²⁷。

政府声明で「体制統一」放棄を要求

北朝鮮政府は、金正日総書記と金大中大統領が初の南北首脳会談で南北共同宣言を発表して15周年になる2015年6月15日に、南北対話を呼び掛ける「政府声明」を発表した²⁸。「政府声明」は①外部勢力を排して民族同士が問題を自主的に解決していく②「体制統一」を追求してはならない③米韓合同軍事演習の中止④誹謗・中傷の中止⑤南北の「6・15共同宣言」と「10・4宣言」を履行する実践的措置一の5項目を要求した。

金正恩第1書記は「新年の辞」で南北対話や、雰囲気や環境が整えば南北首脳会談の用意があることを表明したが、「政府声明」は「北南の間で、信頼し、和解する雰囲気が醸成されれば、当局間対話と交渉が開催できない理由はない」と対話の意思を示した。

金正恩氏、中国人民志願軍に「崇高な敬意」表明

平壤では朝鮮戦争の休戦協定調印の日（7月27日）を前にした2015年7月25日に祖国解放戦争勝利62周年にあたっての第4回全国老兵大会が開かれた。金正恩第1書記が演説を行い、金正恩第1書記は「祖国の自由・独立と平和のための聖戦に貴重な生命を捧げた人民軍の烈士たちと中国人民志願軍の烈士たちに崇高な敬意を表します」と述べた²⁹。金正恩第1書記はこの演説でさらに「朝鮮人民の自由・独立とアジアにおける平和のために、わが人民軍と同じ塹壕で肩を組み、血を流して戦い、われわれの正義の革命戦争を助けてくれた中国人民志願軍の老兵の同志たちにも崇高な敬意を表します」と2度目の「崇高な敬意」を表明した。

さらに、朝鮮中央通信は「祖国解放戦争勝利」の当日である7月27日に、金正恩第1書記が平安南道楡倉郡にある中国人民志願軍烈士陵园に花輪を送ったと報じた。

中朝関係は冷却化していたが、金正恩第1書記の「崇高な敬意」表明で、関係修復に動くのではないかという見方が出た。

一方で、金正恩第1書記は「われわれはいま、米帝が望むあらゆる戦争方式にすべて対応する力がある」とした上で「米帝の核戦争挑発を抑止することができる強い力を持っている」と述べた。さらに「米帝のやつらが核を握ってわれわれを威嚇、恐喝した時代は永遠に終息し、今や米国はわが方にとっては、脅威と恐怖の存在ではなく、逆にわが方が米国のやつらにとって最も大きな脅威と恐怖となっている」と米国を威嚇した。

中国側も金正恩第1書記の発言にすぐ反応した。李進軍大使と在平壤中国大使館の職員は中国解放軍の建軍88周年の前日にあたる7月31日、中国人民志願軍烈士陵园を参拝し、「抗米援朝」戦争に参戦し犠牲になった中国人民志願軍兵士を慰霊した。同大使館はホームページでこの参拝を伝えながら「中朝の友誼で、鮮血は固まり、その偉大な功績は不朽であり、後世を照らす」と血盟関係を強調した。

しかし、その後、マレーシアの首都クアラルンプールでは8月6日から東南アジア諸国連合（ASEAN）地域フォーラム（ARF）が開かれたが、北朝鮮の李洙暎外相と中国の王毅外相との会談はなかった。北朝鮮がARFに参加して以来、中朝外相会談がなかったことは初めてだった。中朝関係は金正恩第1書記の踏み込んだ発言にもかかわらず、足踏み状況が続いた。

「準戦時態勢」から「8・25合意」へ

北朝鮮の最高人民会議常任委員会は8月5日に政令を発表し、祖国解放70周年を迎える8月15日から標準時間を30分遅らす「平壤時間」を実施すると発表した³⁰。

韓国と北朝鮮の非武装地帯（DMZ）で8月4日、韓国軍兵士2人が地雷の爆発で負傷する事件が発生した。韓国政府は8月10日、地雷は北朝鮮が埋設したものと断定し、報復措置として北朝鮮向けの宣伝放送を11年ぶりに再開すると発表した。しかし、北朝鮮側は8月14日に国防委政策局が談話を発表し、非武装地帯での地雷爆発への関与を否定した³¹。さらに朝鮮人民軍前線司令部が8月15日に「公開警告状」を発表し、韓国の対北宣伝放送の再開を非難し、これを中止しなければ「物理的な軍事行動」を取ると警告した³²。

こうした中で8月20日に南北の軍事的緊張が一気に高まった。韓国軍によると、北朝鮮は20日午後3時53分、京畿道漣川郡の野山に14.5ミリ高射砲とみられる1発の砲撃があり、同4時12分に軍事境界線の南側約700メートルの非武装地帯に76.2ミリ直射砲数発の砲撃があった。韓国軍はこの攻撃への対抗措置として同5時4分に155ミリ砲、数10発を軍事境界線の北方500メートルの非武装地帯に向けて発射した。双方に負傷者などはなかった。

北朝鮮では朝鮮労働党中央軍事委員会非常拡大会議が開催され、金正恩第1書記が前線地域に21日午後5時から「準戦時態勢」を宣布する朝鮮人民軍最高司令官命令を下した³³。

こうした緊張激化をうけて、韓国と北朝鮮は8月22日午後6時半（日本時間）から板門店で南北の高官会議を開催した。南北高官会談には北朝鮮から黄炳瑞軍総政治局長、金養建党統一戦線部長、韓国から金寛鎮青瓦台国家安保室長、洪容杓統一部長官が参加し、25日未明まで続き、会談時間は43時間にわたった。その結果、南北は（1）当局会談をソウルまたは平壤で早期に開催（2）北側は、南側地域で発生した地雷爆発で南側軍人が負傷したことについて遺憾を表明（3）南側は、全ての拡声器放送を中断（4）北側は準戦時状態を解除（5）南北は、秋夕を契機に離散家族の再会を行い、今後続けることにし、そのための赤十字実務接触を9月初旬に開催（6）南北は、多様な分野での民間交流を活性化の一の6項目で合意した³⁴。

北京での冷遇、南北間では離散家族再会

北京では9月3日「中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利70周年」の記念式典が開かれた。韓国の朴槿恵大統領は参加したが、金正恩第1書記は参加しなかった。北朝鮮からは崔龍海党書記が努光鉄人民武力部第1副部長や李ギルソン外務省次官を同行して同2日に北京入りした。崔龍海党書記は国家指導者の待遇は受けたが、9月3日の軍事パレード参観では、天安門前広場の城楼の中央ではなく、一番右端に立っていた。中央にいた朴槿恵大統領と比べると冷遇というしかなかった。崔龍海党書記は中国指導部との個別の会談もせず3日に帰国した。冷却した中朝関係を反映したものと受け止められた。

一方、韓国と北朝鮮の両赤十字は9月7日から8日まで板門店での24時間のマラソン協議で、南北離散家族の再会を10月20日から26日まで北朝鮮の金剛山で行うことで合意した³⁵。この合意に基づき、10月20日から22日には北朝鮮側の対象者96家族が韓国にいる家族と、24日から26日まで韓国側の90家族が北朝鮮にいる家族と金剛山でそれぞれ

65年ぶりの再会を果たした。

金正恩第1書記は9月7日に、訪朝したキューバ国家代表団のディアスカネル国家評議会第1副議長と会談し、女性音楽グループ「牡丹峰楽団」などのコンサートを李雪主夫人も交えて観覧した³⁶。

北朝鮮北東部の羅先市が8月21日から23日に掛けての台風で大きな被害を受けた。北朝鮮当局は約40人が死亡し、家屋1000戸以上が破損、1万1000人が被災したと発表した。北朝鮮メディアは9月18日、金正恩第1書記が台風被害を受けた羅先市の「被害復旧戦闘」を現地指導したと報じた³⁷。被害を受けて約1カ月近く後ではあったが、金正恩第1書記が被災地を訪問するのはこれが初めてだった。

さらに、党創建70周年を2日後に控えた10月8日、北朝鮮メディアは金正恩第1書記が洪水被害の復旧を終えた北東部の経済特区、羅先市先鋒地区を視察したと報道した。この視察には2014年11月から動静報道の途絶えていた馬園春国防委設計局長の同行が報じられた。地方で「革命化教育」を受けて、復権したとみられた³⁸。

金正恩第1書記は11月19日に新たにつくられた地下鉄車両の試運転に参加したが、この同行者に韓光相氏の名前が報じられた³⁹。韓光相氏は党財政経理部長を務め、金正恩第1書記の現地指導などにもたびたび同行し側近として注目されたが、金正恩第1書記が3月2日に軍部隊視察に同行したことが報じられて以来動静報道が途絶えていた。約8カ月ぶりの登場で、党財政経理部長を解任されたが、再び復権したとみられた。

朝鮮労働党創建70周年

北朝鮮は2015年10月10日に朝鮮労働党創建70周年を迎え、平壤の金日成広場では兵士ら約2万人が参加する軍事パレードが行われ、さらに市民10万人を動員したパレードを加えると計12万人という史上最大規模で記念行事を行った。

軍事パレードを見下ろす主席壇では金正恩第1書記と中国の序列5位の劉雲山・中国共産党政治局常務委員が手を取り合って参観し、中朝の伝統的な友好関係修復を誇示した。北朝鮮は繰り返し「自主権の問題」と主張していた事実上の長距離弾道ミサイルである「人工衛星」の発射も見送った。

金正恩第1書記は約25分間にわたり演説を行った⁴⁰。金正恩第1書記は「わが党は、史上初めて人民重視、人民尊重、人民愛の政治を実施し、終生人民のためにすべてを捧げた金日成同志と金正日同志の高貴な志を体し、今日も明日もとわに人民大衆第一主義の聖なる歴史をつづっていくだろう」と強調し、この演説で97回も「人民」を連呼した。

金正恩第1書記は「わが党は、今日、われわれの革命武力が、米帝の望むいかなる形態の戦争にもすべて対応することができ、祖国の青空と人民の安寧を磐石のごとく死守する万全の準備を整えていることを堂々と宣言することができる」としたが、核抑止力など核・ミサイルには直接言及しなかった。

軍事パレードでは大陸間弾道ミサイルとみられる「KN08」を登場させ、放射能マークを付けた背囊を担いだ部隊が登場した。この放射能マークを付けた背囊部隊は2013年7月の軍事パレードでも登場した。しかし、軍事パレードの内容もおおむね想定の内枠内で、国際社会を大きく刺激するようなものはなかった。

その一方で、金正恩第1書記は10月4日付で党創建70周年記念論文「偉大な金日成、

金正日同志の党の偉業は必勝不敗である」を公表、ここでは「最先端の装備をより多くつくり、自衛的核抑止力を絶えず強化しなければならない」とし、核抑止力の強化を訴えた。

また、国内向けの朝鮮中央放送（ラジオ）では、軍事パレードを生中継しながら「多様化され、小型化された核弾頭を搭載した威力ある戦略ロケットが相次いで登場します」との解説が流れた。

北朝鮮のこうした演出は、国内向けと海外向けのメッセージを使い分け、国外に対しては挑発的な表現を抑えながら、国内的には核・ミサイル開発路線を強調したものであった。

中朝の伝統的友好関係を演出

中国は北朝鮮の党創建70周年に当たり、党内序列5位の劉雲山党政治局常務委員の訪朝を決め、劉常務委員を団長とする代表団が10月9日から12日まで北朝鮮を訪問した。

金正恩第1書記は劉雲山常務委員が訪朝した10月9日に会見に応じ、劉雲山常務委員は習近平党総書記の親書を伝達した。北朝鮮のテレビは双方が抱き合う友好的な映像を放映した⁴¹。

金正恩第1書記は劉雲山常務委員らの訪朝が「両党、両国間の立派な伝統を継承し、発展させることに積極的に寄与する意義深い訪問になることを願う」と述べた。金正恩第1書記は、この上で「朝中関係は単なる隣との関係ではなく、血潮でもって結ばれた友好の伝統に根ざした戦略的關係になってきた」とし「金日成主席同志と金正日総書記同志がわれわれに残した最大の対外事業業績と遺産も朝中友好である」と語った。

中国の習総書記は劉雲山常務委員が渡した親書で「中国の党と政府は、両国関係を高度に重視しており、戦略的高みと長期的な角度から両国関係の発展を見据え、関係を維持し、強化し、発展させていく」と強調した。さらに習総書記は「われわれは両国関係の大局と、両国の発展という大計から出発し（中略）両国関係の発展を推進して行きたい」と述べた。

中国側の発表では、劉雲山常務委員は「中国は朝鮮半島の非核化実現の目標を堅持している」と強調し、金正恩第1書記に6カ国協議の早期再開を呼び掛けた。しかし、北朝鮮側発表ではこの部分はなかった。

新華社によると、劉雲山氏は10月10日に金永南最高人民会議常任委員長との会談の場で、金正恩第1書記との会談で双方が「伝統的友好関係を継承、推進」することで一致し、金正恩第1書記と「広範な合意」を達成したと明らかにした。劉雲山氏の語った「広範な合意」は具体的には明らかになっていないが、両国の高位級幹部の相互訪問、経済協力、文化交流などを活性化させることではないかとみられた。

第7回党大会開催を決定

朝鮮労働党中央委政治局は10月30日に、「党中央委員会政治局決定書」として2016年5月初めに第7回党大会を開催すると発表した⁴²。北朝鮮で党大会が開催されるのは1980年10月に第6回党大会が開催されて以来、36年ぶり。一部では10月の党創建70周年前後に党大会が開催されるのではとの見方が出たが、2016年5月開催が正式に発表された。2010年9月に改正された党規約では（党規約は2012年4月にまた改正されたが、その内容は公表されていない）、党大会の招集日は「6カ月前に発表する」となっており、この条項にもとづき、約6カ月前に開催を発表したとみられる。

金正日総書記は党大会を開催することなく死亡したが、金正恩第1書記は約4年半で党大会を開催し、公式に「金正恩時代」をスタートさせる狙いとみられた。

党大会の開催に当たっては党の下部組織から代議員の選出を重ねながら大会開催にいたるため、この過程を通じて労働党の世代交代が大幅に進むとみられた。

李乙雪元帥が死亡、崔龍海氏解任

朝鮮労働党中央委員会、朝鮮労働党中央軍事委員会、国防委員会、最高人民会議常任委員会の4機関は11月7日、同日午前パルチザン世代の李乙雪元帥が94歳で死亡したとの「訃告」を発表し⁴³、金正恩第1書記をトップに171名で構成された国家葬儀委員会の名簿を発表した⁴⁴。

この国家葬儀委員会の名簿には崔龍海党書記の名前がなく、11月11日に行われた李乙雪氏の葬儀にも崔龍海氏の姿がなく、崔龍海氏が党書記・党政治局員のポストから解任された可能性が高まった。崔龍海氏は10月22日に平壤体育館で開かれた全国道対抗体育大会に国家体育指導委員会委員長として参加したのが公式の場に姿を現した最後であった。

その後の10月31日付の労働党機関紙では崔龍海氏のコメントが引用されている。このため、崔龍海氏の解任は11月に入ってから国家葬儀委員会の名簿が発表された同8日までの間に起きたと考えられた。

党機関紙「労働新聞」は11月2日に2面全面を使って「死んでも革命の信念を捨てるな」という論説を掲載し「信念は一度胸に刻んだからといって永遠なものではなく、おのずと遺伝するものでもない。歴史は、試練を経験したことのない新世代が信念の血を受け継ぐことができなければ、革命の代が替わる時期に前世代が譲り渡した革命思想と革命の獲得物を決死的に守り抜くことができず、野心家、陰謀家に籠絡されてしまうということを示している」と主張した⁴⁵。

解任されたとみられた崔龍海氏は、パルチザン世代で北朝鮮の初代人民武力部長を務めた崔賢氏の息子で、この論説と崔龍海氏解任の関係が注目された。韓国政府関係者は11月12日、崔龍海氏が「革命化教育」を受けているとの見方を示した⁴⁶。

李乙雪元帥の国家葬儀委員会には、政治局員クラスでは、金正日総書記の実妹で粛清・処刑された張成沢党行政部長の妻、金慶喜党政治局員や、国防委員から解任された朴道春氏の名前がなく、権力の中核から引退したという見方が出た。

韓国の情報機関、国家情報院傘下の研究機関「国家安保戦略研究院」は11月26日、ソウル市内で「金正恩政権4年の評価と南北関係の展望」と題したシンポジウムを開き、李スソク同研究院首席研究委員は「金正恩政権が発足して以降に処刑された幹部が100余名に達すると把握される」と報告し、金正恩体制が「首領唯一恐怖体制」ともいうべき金正恩第1書記による個人独裁が強まっているとした⁴⁷。

12月12日の2つの事件

12月12日に中朝関係と南北関係に絡んだ2つの「事件」が起きた。

第1は金正恩第1書記が結成したとされる牡丹峰楽団が中国公演を突然中止し、平壤に撤収してしまった事件だ。牡丹峰楽団は12月10日に北京入りし、同11日には男声合唱団「功勳国家合唱団」とともに公演会場の国家大劇院でリハーサルを行った。

撤回の原因については明確ではないが、12月10日に党機関紙「労働新聞」など北朝鮮メディアが、金正恩第1書記が平川革命史跡地を訪問した際に「水素爆弾保有」発言をしたために、中国側がこれに反発、公演参観者を党政治局員レベルから次官レベルに下げたためという見方が出た。金正恩第1書記は「今日、わが祖国は国の自主権と民族の尊厳を守る自衛の核爆弾、水素爆弾の巨大な爆音をとどろかせることのできる強大な核保有国になることができた」と発言した⁴⁸。

また、楽団の公演内容にミサイル発射の場面があり、北朝鮮のミサイル発射を容認できない中国側がこの削除を要求したという見方も出た。

10月10日の劉雲山党常務委員の訪朝で好転しつつあった中朝関係をさらに発展させるために派遣された牡丹峰楽団であったが、逆に中朝関係を再び冷却化させた。

第2の事件は「8・25合意」を受けて、北朝鮮の開城で行われた南北当局者会談が次回の日程も決まらず決裂したことだ。韓国側は黄富起統一部次官が北朝鮮側はチョン・ジョンス祖国平和統一委員会副書記局長が首席代表を務めた。北朝鮮は一貫して2008年7月に中断した金剛山観光の再開を求めた。韓国側は韓国人観光客が北朝鮮の軍人に撃たれた事件の謝罪と観光客の安全を守る措置が先行しなければならないとし、これとは別に、離散家族の再開事業の定例化や離散家族の生死の確認作業、書簡の往来実現などを要求した。さらに、非武装地帯（DMZ）世界生態平和公園の造成や開城工業団地の3通（通行・通関・通信）問題——などを提案した。南北関係は、「8・25合意」以後、離散家族の再会事業も行われ、南北当局者会談も始まり、本格的な南北対話への期待が高まっていた。しかし、南北当局者会談が何の合意もなく決裂し、こうした期待が打ち砕かれた。

金養建党統一戦線部長が死亡、崔龍海氏復権

北朝鮮の党機関紙「労働新聞」など北朝鮮メディアは2015年12月30日、金養建党統一戦線部長が交通事故により、同29日午前6時15分に73歳で死亡したと報じた⁴⁹。朝鮮労働党中央委員会と最高人民会議常任委員会は訃告を発表し、金養建党書記の葬儀を国葬にするとし、金正恩第1書記を委員長とする総勢70人の国家葬儀委員会の名簿を発表した⁵⁰。

金養建氏は北朝鮮指導部の中で比較的穏健派で、金正恩第1書記との関係も良好であったため、北朝鮮を挑発路線に走らせないためにも金養建氏の死亡はマイナスとの分析も出た。過去には北朝鮮の要人が交通事故で疑問の死を遂げていることもあり、金養建氏の交通事故死についても疑問を示す声が出たが、明確な根拠はなかった。

また、発表された国葬委員会の序列6位に崔龍海氏の名前があり、党書記・政治局員を解任され「革命化教育」を受けているとみられた崔龍海氏が約3カ月でスピード復権を果たしたことが明らかになった。朝鮮中央通信は2016年1月14日、平壤の人民文化宮殿で「金日成社会主義青年同盟創立70年慶祝行事」の代表証を参加者たちに授与する行事が行われたと報じる中で「朝鮮労働党中央委員会書記、崔龍海同志が演説した」と報じ、崔龍海氏が党書記にカムバックしていることを確認した。

金正恩第1書記「2016年新年の辞」

金正恩第1書記は2016年1月1日の正午（日本時間午後零時半）から約30分間、肉声で「新

年の辞」を發表した⁵¹。

金正恩第1書記は「朝鮮労働党第7回大会は金日成同志と金正日同志の賢明な指導のもとに、わが党が革命と建設で収めた成果を誇り高く総括し、朝鮮革命の最後の勝利を早めるための輝かしい設計図を示すであろう」と述べ、第7回党大会で新たな提案や政策が示されることを示唆した。

金正恩第1書記は、「新年の辞」で、直接的に「核抑止力」に言及せず「核爆弾を爆発させ、人工衛星を打ち上げたことにより大きな威力で世界を震撼させ、一心団結と銃剣を必勝の武器として闘うわが党と軍隊と人民の力強い進軍は何をもってしても押しとどめることができないことをはっきりと示した」と述べた。さらに、金正恩政権の基本路線ともいべき経済建設と核開発を同時に進める「並進路線」にも言及しなかった。

金正恩第1書記は「経済強国の建設に総力を集中し、国の経済発展と人民生活の向上において新たな転換をもたらすべきだ」と述べ、第7回党大会を開催する今年の最大の目標を「経済強国建設」と「人民生活の向上」とした。経済建設では、北朝鮮で従来「先行4部門」といわれる電力、石炭、金属工業、鉄道輸送が「総進撃の先頭」に立つことを求めた。

前年は人民生活向上の転換を生み出すために「農業と畜産業、水産業を3本の柱とし、人民の食の問題を解決し、食生活水準を一段と高めなければならない」としたが、この3部門は「先行4部門」に続く第2の課題になった。

金正恩第1書記は「社会主義強盛国家建設で自強力第一主義を高く掲げるべきだ。事大主義と外部勢力依存は亡国の道であり、自強の道だけがわが祖国、わが民族の尊厳を守り、革命と建設の活路を切り開く道だ」と強調した。北朝鮮はこれまで「自力更生」路線を強調してきたが、今回「自強力第一主義」という新たなスローガンをつくった。

金正恩政権が積極的に推し進めている「経済開発区」については何の言及もなかった。その一方で、「チュチェ思想を具現したわれわれ式经济管理方法を全面的に確立するための活動を積極的に推し進めて、その優越性と生命力が強く発揮されるようにしなければならない」と強調し、金正恩政権が推進している「社会主義经济管理方法の改善」という名の経済改革路線は維持している姿勢を示した。

「新年の辞」では「党組織と国家機関は、人民重視、人民尊重、人民愛の政治を具現して人民の要求と利益を絶対視し、人民の政治的生命と物質・文化生活を、責任を持って最後まで見守るべきだ」と語り、「人民重視」、「人民尊重」、「人民愛」を柱とする金正恩式愛民政治を強調した。党組織や幹部に対して「勢道（派閥、権勢）」、「官僚主義」「不正腐敗」との闘争を求めた。

第4回核実験

北朝鮮は2015年8月の韓国との「8・25合意」以降、比較的穏健な路線を取っていた。10月10日の党創建70周年には中国の劉雲山党政治局常務委員が訪朝し、中朝関係も改善に向かうかに見えた。また、金正恩第1書記はこの際の演説では「核抑止力」には言及せず、軍事パレードも想定の枠内であった。金正恩第1書記の2016年の「新年の辞」でも「核抑止力」や、経済建設と核開発を同時に進める「並進路線」に言及がなく、経済建設や人民生活の向上が強調された。そのため、5月の党大会までは比較的穏健な路線を取るという期待があった。

しかし、北朝鮮は2016年1月6日午前10時（日本時間同10時半）に第4回目の核実験を行った⁵²。北朝鮮は2時間後の同日正午（同日午後零時半）、「政府声明」で「朝鮮労働党の戦略的決心によって、チュチェ105（2016）年1月6日10時、チュチェ朝鮮の初の水爆実験が成功裏に行われた」と発表し、4回目の核実験が「水爆実験」とであると主張した。

今回の核実験については「われわれの知恵、われわれの技術、われわれの力に100%依拠した今回の実験を通じて、われわれは新しく開発された試験用水素弾（水爆）の技術的諸元が正確であることを完全に立証し、小型化された水素弾の威力を科学的に解明した」とした。

韓国の情報機関、国家情報院は6日、爆発の規模について、TNT火薬に換算して6.0キロトンと推定した。韓国国防省はこれまで3回目の核実験について「6～7キロトン」と推定してきたが、国情院は今回の報告では第3回目の核実験の爆発力は「7.9キロトン」だったとの見方を明らかにした⁵³。

韓国国防部は「水爆の実験とみるのは難しい」と評価した。米国のアーネスト大統領報道官は「水爆実験を成功させたとの北朝鮮の主張はわれわれの初期分析と一致しない」と述べ、今回の核実験が水爆実験とする北朝鮮の主張を否定した。

多くの専門家は今回の核実験が「ブースト型核分裂爆弾」であった可能性を指摘する。「ブースト型核分裂爆弾」は強化原爆、増幅核兵器などともいわれる。原爆と水爆の中間にある原爆の爆発力を強化した核兵器である。しかし、党機関紙「労働新聞」は1月11日の論評で、今回の核実験を「ブースト型核分裂爆弾」との見方に対して「これは恐怖におびえた山犬の断末魔的悪あがきに過ぎない」と非難し、ブースト型との見方を否定した⁵⁴。今回の第4回核実験で重要なことは、実験が水爆かどうかではなく、北朝鮮の核開発の水準の向上と核兵器の材料となる核物質の蓄積が遅滞することなく進んでいることを示した。

金英哲氏が党書記に

韓国の与党・セヌリ党のシンクタンク、汝矣島研究所は2016年1月18日、党最高委員会に報告書を提出し、昨年末に死亡した金養建党統一戦線部長の後任に、対南強硬派で知られる北朝鮮の工作機関、偵察総局のトップである金英哲偵察総局長が内定したと指摘した⁵⁵。

朝鮮中央通信は2月11日、「ラオスを訪問する朝鮮労働党書記、金英哲同志を団長とする朝鮮労働党代表団が11日、平壤を出発した」と報じ、金英哲氏の党書記就任を確認した⁵⁶。朝鮮中央通信は金英哲氏がどの分野を担当する党書記かについては言及していないが、対南（韓国）担当書記・党統一戦線部長に就任したとみられている。

事実上の弾道ミサイルである「人工衛星」打ち上げ

北朝鮮は2月7日午前9時（日本時間同9時半）に同国北西部の平安北道鉄山郡東倉里の「西海衛星発射場」から、事実上の長距離弾道ミサイルである人工衛星を打ち上げた。北朝鮮の朝鮮国家宇宙開発局は打ち上げ3時間後の同日正午（日本時間午後零時半）に「地球観測衛星『光明星4号』を軌道に進入させることに完全に成功した」と発表した⁵⁷。

同開発局は、「光明星4号」は発射9分46秒後に軌道に進入し、97.4度の軌道傾斜角で

近地点高度494.6キロ、遠地点高度500キロの極軌道を回り、周期は94分24秒であるとした。米戦略軍司令部や韓国国防部も北朝鮮の打ち上げた物体が軌道に乗ったことを確認した。しかし、軌道に乗った物体から正常な発信がされていることは確認されていない。2012年12月に打ち上げた「光明星3号」と同じように、軌道進入には成功したが、観測や通信という人工衛星の機能を発揮することには失敗した可能性が高い。

この「人工衛星」を打ち上げた「西海衛星発射場」は改修工事が行われ、2013年より大型のロケットが打ち上げられる可能性が指摘されてきたが、韓国国防部は今回発射されたロケットは直径2.4メートル、長さ約30メートルでほぼ2013年と同じロケットであると分析した。

北朝鮮は2013年12月に続いて「人工衛星」を軌道に乗せることに成功し、制御技術の向上と安定を示した。また、韓国国防部は2013年のロケットの射距離を約1万キロとしたが、今回は1万2000キロと評価した。射距離1万2000キロは米国のワシントンやニューヨークを射程に入れることのできるものである。また、韓国国防部は、前は第3段目ロケットに搭載された「衛星」部分の重量を100キロとしたが、今回は200キロと推定した。韓国国防部は、北朝鮮は核兵器の小型化にかなりの進展を見せているが、まだ長距離弾道ミサイルに搭載できるほどにはなっていないと評価した。さらに大陸間弾道ミサイル(ICBM)には弾頭部分が大気圏外から大気圏に再突入する際に燃焼しない技術が必要だが、北朝鮮はまだこの大気圏再突入技術は保有していないと評価した⁵⁸。

李永吉総参謀長も粛清

朝鮮労働党機関紙「労働新聞」は2月9日に、光明星4号の打ち上げ成功を祝う平壤市軍民慶祝大会が2月8日に市民、軍人約15万人が参加して行われたと報じた。同紙は、この大会に参加した幹部を「金永南、黄炳瑞、朴奉珠、金己男、崔泰福、朴永植、李明秀（以下省略）」の順番で報じた。朴永植人民武力部長の次は総参謀長の序列だったが、李永吉総参謀長の名前がなく、李明秀大将の名があった。総参謀長が李永吉氏から李明秀氏に交代した可能性が浮上した⁵⁹。朝鮮中央通信は2月21日に金正恩第1書記が朝鮮人民軍大連合部隊間の双方実動訓練を視察したと報じる中で、李明秀氏を「朝鮮人民軍総参謀長で陸軍大将」と伝え、総参謀長就任を確認した⁶⁰。韓国の聯合ニュースは2月10日、複数の対北消息筋の話として2月初めに李永吉総参謀長が「宗派分子および勢道・不正容疑」で処刑されたことが明らかになったと報じた⁶¹。

北朝鮮では2月2、3の両日、平壤で「朝鮮労働党中央委員会と朝鮮労働党朝鮮人民軍委員会の連合会議拡大会議」が開催された⁶²。党中央委と党人民委員会の連合会議の開催は初めてだった。

連合会議では「党内に残っている特権と特勢、勢道と官僚主義が集中的に批判され、これを徹底的に克服するための課業と方途が提示された」と報じた。金正恩第1書記はここで「全党、全軍がわれわれの一心団結を破壊し、むしろ勢道と官僚主義を徹底的になくすための闘争を強力に展開していかなければならない」と強調した。金正恩第1書記は「全軍に最高司令官の命令一下、1つになって動く革命的軍風を打ち立て、党の命令、指示を最短期間内に最後まで遂行しなければならない」とし、「人民軍隊は最高司令官が指し示す1つの方向だけに進まねばならない」と強調した。

連合会議は第4回目の核実験の後、「人工衛星打ち上げ」の直前に開催されたが、核・ミサイルや人工衛星への言及はなく、勢道や軍閥官僚主義批判で貫かれ、李永吉総参謀長との関連が注目された。

韓国の北朝鮮専門サイト「デイリーNK」は2月11日、平安南道の消息筋の話として、李永吉総参謀長はこの連合会議で緊急逮捕されたと報じた⁶³。同消息筋の話によると、「反党、反革命分子、李永吉を逮捕せよ」という命令で、金正恩第1書記の護衛警察である「蒼光保安署」の要員が一般席の前方に座っていた李永吉総参謀長に駆け寄り、手錠を掛けて連行したという。逮捕されたのは、李永吉総参謀長ら数人の将校だった。

まとめ

金正恩体制が2011年12月にスタートし、4年余が経過した。李英鎬総参謀長や張成沢党行政部長の粛清に加え、2015年以降には玄永哲人民武力部長や李永吉総参謀長の粛清など、自らが起用した幹部の粛清まで行われ、韓国などでは、金正恩第1書記の「恐怖政治」が指摘された。

金正恩政権の内外政策は数ヶ月から半年ぐらいで急激に変化し、金正恩第1書記の政策の方向性を読むことは難しい。2015年においても「8・25合意」以降は中国を含めて国際社会に配慮した比較的抑制された対外姿勢を示し、国内でも解任した幹部を復権させたり、降格した軍人を昇格させたりし、政権を安定化させる兆しを見せていた。しかし、2016年に入ると、4回目の核実験や、事実上の長距離弾道ミサイルである「人工衛星」の打ち上げを強行し、国際社会との対立を激化させた。金正恩第1書記の「予測不可能性」が国際社会を困惑させている。

金正日総書記によって確立された「首領制」は、まだ30歳代になったばかりの金正恩第1書記にも絶対的な権力を与えた。党や軍の幹部の粛清を繰り返しながら、金正恩第1書記の「唯一的領導體系」という名の独裁体制は強化されている。国家安全保衛部や党組織指導部、軍総政治局に支えられた金正恩第1書記の権力基盤は強化されている。

しかし、「恐怖統治」は幹部の保身主義を招き、幹部が建設的な提言や積極的な政策を展開する空間を縮小しているのも事実のようにみえる。

特に憂慮されるのは、外交部門で金正恩第1書記を支える基盤が弱化していることだ。姜錫柱党国際担当書記は闘病中とみられ、穏健派として金正恩第1書記を支えてきた金養建党統一戦線部長は交通事故で死亡した。対米外交には金桂冠第1外務次官がいるが、対中外交、対日外交などには司令塔の役割を果たせる幹部が不在だ。

また軍では玄永哲人民武力部長、李永吉総参謀長という軍団長を経験した「野戦軍人」が粛清され、軍総政治局などで活動してきた「政治軍人」の優位が形成されつつある。軍への党の指導は社会主義国家の軍の原則ではあるが、こうした現場を知る軍人への粛清が軍内部で葛藤を生み出さないかも注目せざるを得ない点だ。

2016年5月に36年ぶりに開催される第7回党大会は金正恩時代を公式にスタートさせる重要な大会になる。党組織では下部から世代交代が進むとみられるが、党政治局など党中枢の構成がどうなるか注目される。さらに金正恩第1書記が進めてきた「社会主義経済管理方法の改善」という経済改革が今後どう推進されるのか、韓国との南北関係、統一問題に対する長期的な方針が示される可能性もある。党大会後の対外政策の変化も注視したい。

— 注 —

- 1 「労働新聞」2015年1月1日「신년사 김정은」
- 2 「朝鮮中央通信」2014年11月1日「김정은제1비서 평양국제비행장건설장을 현지지도, 개발과업 제시」
- 3 「同」2014年11月5日「김정은제1비서 대대장, 대대정치지도원대회 참가자들과 기념사진」
- 4 「同」2015年1月7日「김정은제1비서 비판총포사격경기대회 지도」
- 5 「聯合ニュース」2015年2月24日「국정원 “터키 간 김군, IS 서 훈련중” …한국인 첫사례 (종합)」
- 6 「朝鮮中央通信」同2月13日「조선로동당중앙위 정치국회의」
- 7 「同」同2月12日「조선로동당 중앙위, 중앙군사위 공동구호 발표」
- 8 「同」2月19日「김정은제1비서 지도밑에 조선로동당정치국확대회의」
- 9 「同」2月23日「김정은제1비서 지도밑에 당중앙군사위 확대회의」
- 10 「同」1月27日「김정은제1비서 서부전선 기계화타격집단 장갑보병구분대들의 겨울철도하공격연습 조직지도」
- 11 「同」1月31日「김정은제1비서 군중타격훈련 조직지도」
- 12 「同」2月28日「김정은제1비서 전승기념관에 새로 꾸린 근위부대관 시찰」
- 13 「同」4月8日「김정일총비서 국방위원회 위원장 추대 22 돌경축 중앙보고대회」
- 14 「労働新聞」1月30日「김정은 《세포지구 축산기지건설을 다그치며 축산업발전에서 새로운 전환을 일으키자》」
- 15 「朝鮮中央通信」4月9日「조선 최고인민회의 제13기 제3차회의 진행」
- 16 「同」7月23日「김정은제1비서 새로 건설한 신천박물관 현지지도」
- 17 「同」4月3日「라선시에 김일성주석, 김정일총비서의 동상 건립」
- 18 「聯合ニュース」8月9日「북한 오수용 당비서, 정치국 ‘후보위원’ 에서 ‘위원’ 승격」
- 19 「朝鮮中央通信」4月19日「김정은제1비서 전투비행사 백두산지구 답사행군대 성원들과 함께 백두산에 오르시었다」
- 20 「朝鮮中央通信」4月18日「조선대표단 평양출발 - 아시아아프리카수뇌자회의」
- 21 「同」5月8日「김영남위원장 평양 출발 - 로씨야 전승 70 돌 경축행사에 참가」
- 22 「同」9月2日「조선대표단 중국으로 출발 - 전승승리 70 돌행사 참가」
- 23 「聯合ニュース」5月13日「국정원 “현영철 北인민무력부장, 반역죄로 공개처형” (종합3보)」
- 24 「同」7月14日「국정원 “김정은, ‘처형간부 흔적지우기’ 중단 지시” (종합)」
- 25 「朝鮮中央通信」7月11日「조선군사대표단과 라오스고위군사대표단 회담」
- 26 「同」6月16日「조선의 농촌 심한 가물피해」
- 27 「聯合ニュース」7月10日「정부 “北 가물피해 상당부분 완화…일부 지역은 지속”」
- 28 「朝鮮中央通信」6月15日「조선정부 6.15 공동선언의 기치따라 조국통일의 전환적국면 일어나갈것 강조」
- 29 「同」7月26日「김정은제1비서 제4차 전국로병대회에서 축하연설」
- 30 「同」8月7日「조선에서 표준시간 제정, 평양시간으로 명명」
- 31 「同」8月14日「조선국방위 정책국 《지뢰폭발》사건의 《북도발》설 규탄」
- 32 「同」8月15日「조선인민군 전선사령부 《대북심리전》방송 비난」
- 33 「同」8月21日「김정은제1비서 전선지대에 준전시상태 선포 - 당중앙군사위 비상확대회의」
- 34 「同」8月24日「북남고위급 긴급접촉이 끝났다 - 공동보도문 발표」
- 35 「同」9月8日「북남적십자실무접촉」
- 36 「同」9月7日「김정은제1비서 쿠바국가대표단환영 축하공연 관람」
- 37 「同」9月18日「김정은제1비서 라선시피해복구전투 현지지도」
- 38 「同」10月8日「김정은제1비서 라선시 선봉지구 백학동을 돌아보시었다」
- 39 「同」11月20日「김정은제1비서를 모시고 새로 만든 지하철동차의 시운전」
- 40 「同」10月10日「김정은제1비서 열병식 및 평양시 군중시위에서 연설」1
- 41 「同」10月10日「김정은제1비서 공식친선방문하고있는 중국공산당대표단을 접견」
- 42 「同」10月30日「조선로동당 제7차대회를 2016년 5월초에 소집 - 당중앙위 정치국 결정서」
- 43 「同」11月9日「리을설동지의 서거에 대한 부고」
- 44 「同」11月9日「리을설동지의 장의위원회 구성」
- 45 「労働新聞」11月2日「죽어도 혁명신념 버리지 말자」
- 46 「聯合ニュース」11月12日「대북소식통 “최룡해 ‘해임’ …협동농장서 혁명화교육” (종합)」

- 47 「聯合ニュース」11月25日「안보전략研 “김정은 공포정치, 집권후 北간부 100여명 처형」
- 48 「労働新聞」12月10日「경애하는 김정은동지께서 새로 개건된 평천혁명사적지를 현지지도하시였다」
- 49 「朝鮮中央通信」12月30日「김양건비서의 서거에 대한 부고」
- 50 「朝鮮中央通信」12月30日「고 김양건비서의 장의위원회 구성」
- 51 「労働新聞」2016年1月1日「〈우리의 운명이고 미래이신 경애하는 김정은동지를 일편단심 받들어모시렵니다〉신년사」
- 52 「朝鮮中央通信」1月6日「조선정부 주체조선의 첫 수소탄시험 완전성공」
- 53 「聯合ニュース」1月6日「북 ‘수소탄’ 실험〉軍 “폭발력 약했다…수소폭탄 가능성 작아”」
- 54 「労働新聞」1月11日「핵에는 핵으로, 이것이 우리의 대응방식이다」
- 55 「聯合ニュース」1月18日「김양건 후임 北통전부장, 김영철 정찰총국장에 무계 (종합)」
- 56 「朝鮮中央通信」2月11日「라오스를 방문하는 조선로동당대표단 출발」
- 57 「朝鮮中央通信」2月7日「조선국가우주개발국 지구관측위성 《광명성 -4》 호 발사, 완전성공」
- 58 「聯合ニュース」2月9日「북한 광명성 4호 위성, 상태 불안…무용지물 가능성” (종합 2보)」
- 59 「労働新聞」2月9日「주체의 우주강국, 위대한 김일성, 김정일조선의 국력을 만리대공에 펼쳐가자 - 지구관측위성 《광명성 - 4》 호발사의 성공을 축하하는 평양시군민경축대회 진행」
- 60 「朝鮮中央通信」2016年2月21日「김정은제1비서 대련합부대들사이의 쌍방실동훈련 지도」
- 61 「聯合ニュース」2月10日「리영길 북한 총참모장, 비리혐의로 이달 초 전격 처형” (종합)」
- 62 「朝鮮中央通信」2月4日「조선로동당 중앙위원회, 조선인민군 위원회 연합회의 확대회의 - 김정은제1비서께서 지도」
- 63 「デイリーNK」2月11日「“‘反黨 혐의 처형’ 리영길, 당·군 연합회의서 긴급체포돼”」

